会　議　録

会　議　名	第７回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会	
開 催 日 時	令和８年７月 30 日（木）　午後２時～午後４時	
開 催 場 所	宍粟市役所本庁舎　３階庁議室	
出 席 委 員	林　昌彦、石原　政司、谷笹　摩弥、浪花　正典、成　将希、 山本　めぐみ、岡本　一也、岡﨑　悦也、西山　大作、大垣　陽子、 中本　弘美、小林　由美	
欠 席 委 員	西川　彩児、田中　由理、井上　裕司、	
事　務　局 及び説明員	（地域創生課）石垣公室長、西川次長、藤原地域創生課長、上月副課長、岸根係長、大西主査	
傍 聴 人 数	３人	
会議の区分	公開	（非公開の理由） なし
協議事項等	・第６回委員会のフィードバックについて【資料①－１～５】 ・第３次総合戦略について【資料②、③、④、⑤、参考資料】 ・その他	
会 議 経 過及び 会 議 資 料	別紙のとおり	
会議録確認者	委員長　　林　昌彦　（令和８年８月５日確認）	

（会議の経過）

発言者	議題・発言内容
	■開会
委員長	■委員長あいさつ
事務局	■第６回委員会のフィードバックについて【資料①-１～５】 （説明）
委員長	説明を受けて、ご意見をいただきたい。
全委員	（特になし）
委員長	後ほどでも修正意見があれば、お伝えいただきたい。
事務局	■第３次総合戦略について【資料②、③、④、⑤、参考資料】 （説明）
委員	第３次総合戦略の全体について議論するという認識でよいか。
委員長	今回は第３次総合戦略の重点目標のうち「働く」まで議論し、次回に残る２つを議論する予定である。人口目標などの総論的な部分についても、あわせて議論をお願いしたい。
委員	人口の目標値については、示された数値で問題ないと考える。
委員	第３章の重点目標の名称が、後続の章のタイトルと一部異なっている。名称を統一した方がよいのではないか。
委員	本日の新聞に日本の人口が 1 億 2,000 万人を割ったとの記事があった。昨年度と比較して 91 万人減少とのことであり、毎年、北九州市や堺市規模の都市が消滅していくような感覚である。この 10 年で、人口減少が肌で分かるほど深刻になった。事務局として、この 10 年の総合戦略の歩みを教えてほしい。
委員	人口減少の大きな要因は、若い世代が残りたくても働く場所がないことである。働いている人の性別比率・年齢構成・職種等ベースをよく考えないといけないと思う。林業や農業の従事者は非常に限られた人数で、そこに手をいれても、あまり効果がないのではと思う。市内の民間企業が若い世代から選ばれる企業となるよう、行政として支援を強めてほしい。
委員	宍粟市から転出する原因をより深くリサーチし、解決策を探るべきである。また、姫路市・たつの市・神戸市・大阪への通勤通学は可能となってい

	る。宍粟市に住みながら市外へ通うスタイルを支援することが、人口減少への最大の歯止めになるのではないか。
委員	資料は自分にも十分理解できるほど具体的であり、かえって厳しい現実を突きつけられた思いである。
委員	子どもを産みたいと思えるまちにするには、大人同士の助け合いや思いやりが必要である。近所付き合いや、泣いている子どもを地域全体で受け止めるような温かい雰囲気が、今の時代に求められていると感じる。
委員	人口減少は地域での担い手不足だけでなく、福祉の担い手不足にもつながると思う。住民一人ひとりが自分事として、10 年後や 20 年後を考えられる地域になればよいと思う。また、林業以外に強みとなる産業をどう育てるか、さらに学んでいく必要があると感じた。
委員	資料②はそのまま冊子になるのか。市民が知っておくべき情報が多く含まれるが、現在のレイアウトはやや分かりにくい。概要版を作成する予定はあるか。また、ロジックモデルという用語が分かりにくいため、説明を補足してほしい。
委員	インパクト指標の「市内総生産」は市民に馴染みが薄いかもしれない。1人当たりの市民所得など、より分かりやすい指標を掲げられないか。また、可能であれば、目標値に産業別生産額を積み上げたものを記載する等できないか。
委員長	一通り意見をいただいた。他の委員の意見を聴いたうえで、追加で発言したい点はあるか。
委員	産業別特化係数は業種別の特色を表すものとしては有効だと思うが、全体の従業者数と比べて林業の従事者は 160 名程度である。全体の就業者数が 1 万 5,000 人以上いるなかで、そこに重点を置きすぎるのはバランスを欠くのではないか。施策の建付けを再検討いただきたい。
事務局	指摘のとおり、農林業は係数こそ高いが従事者数は少ないため、基本的な方向２の構成を再度検討する。概要版は、総合計画・総合戦略のいずれも作成する予定である。目標人口の算出根拠については、資料編への掲載を検討する。 第１次総合戦略は国の方針もあり、「定住者の取り合い」のような側面があった。第２次総合戦略以降は、住んでいる市民の幸せやまちの魅力に焦点を当てている。進学後の帰還については、高校卒業後 85%が市外へ進学しており、いかに戻ってもらうかが大きな課題である。
委員長	人口推計値は過去の傾向からの予測であり、そこに新たな取組で「上乗

	せ」をするのが戦略の目標である。ロジックモデルについては、なぜこの手法が必要なのかを説明する資料を提供する。
委員	資料②11 ページのグラフで、宍粟市の立ち位置をどう分析されているのか。また、どの程度の位置を目指すのか教えてほしい。
事務局	宍粟市は全国平均と比べて未婚率が低く、結婚している人の割合は高くなっている。しかし、結婚している女性が産む子どもの数は全国を下回っているため、2020 年時点では、結婚していても子どもを持たない、あるいは持ちにくい状況があるとの分析である。
委員長	「産み育てる」が戦略の柱から外れたのは、どのような理由からか。
事務局	出生数は個人の選択の結果であり、母数となる若年層が減れば構造的に減少する。目標に掲げても施策の成果を正しく測れないという課題があった。今後は「選ばれる」という柱のなかで、若者の定着や転出抑制を指標として捉え、出生数はモニタリング指標として毎年測ることとしている。
委員長	残り時間で、重点目標の 1 つ目「働く」について具体的に協議する。事務局から説明を求める。 ■第３次総合戦略について【資料②、③、④、⑤】 （説明）
委員	意見なし。
委員	意見なし。
委員	林業以外に強みとなる産業について、具体的なイメージがあれば示してほしい。
委員	意見なし。
委員	26 ページの「奨学金返済負担軽減制度の年間利用者数」について、どのようなことを目標としているのか教えてほしい。
委員	掲載されている事業は、ホームページなどに掲載されているものか。掲載されていないのであれば、広報紙などにも積極的に掲載してほしい。また､「中小企業奨学金返済支援事業」の補助金の継続とは何か教えてほしい。
委員	商工業への予算投入が少ないと感じる。女性の雇用やスキルアップなどで、国が民間を支援する時代である。もう少しソフトの部分で行政が支援

	できる部分があると思う。 　また、28 ページでは農地利用面積が減る目標となっているので、再考をお願いしたい。 　森林整備ベース基地（仮称）整備事業については、戦略に掲載しなくてもよいのではないか。
委員	国際情勢やエネルギー価格の高騰など、外的な要因も戦略に加味する必要がある。また、「働く・暮らす・選ばれる」の３つは密接に関係している。個別の議論だけでなく、最後に全体をまとめて議論することも必要だと思う。
委員	資格取得については、個人だけでなく、会社にとってもメリットがあればよいと思う。
委員	26 ページから 27 ページと 28 ページから 30 ページを比べると、商工業の分野は農林業に比べて具体性に欠けるような建付けになっている。従事者数の割合から考えても、商工業の従業者の方が多いため、全体のバランスを整えてほしい。
委員	市内総生産額の産業別の分析はできているか。新規の政策を紹介してほしい。
事務局	農地利用面積の指標については、担当課と再検討する。 　産業別の市内総生産データについては、県の情報をもとに次回提示できるよう検討する。新規参入事業については「新規」と明示する。奨学金制度は、市内中小企業への人材確保を目的としている。
委員長	「主な事業」として掲載する基準は何か。
事務局	担当課が特に注力していく事業を中心に掲載している。 　■その他 　（報告） 　・第８回委員会について 　【開催日】８月 18 日（火）午前 10 時～ （市役所本庁舎４階会議室） 　【議　題】第３次総合戦略の重点目標２及び３
委員長	次回が最後となるため、これまでの意見をまとめた答申書の案を作成し、皆さまに確認いただく。
委員	提案として、職員や市議会議員も含めた合同のロジックモデルの研修会

	を実施してはどうか。また、市民の満足度を測るのであれば、市民アンケート計画のスタート時と５年後で比較できるよう、今から調査すべきではないか。
事務局	研修については検討する。市民の満足度の数値については、昨年取りまとめた調査結果をもとにした最新の数値を使用している。
副委員長	■閉会 長時間の議論に感謝する。専門的な手法の話も多く、生活実感との兼ね合いで難しい部分もあったと思う。林委員長のフォローを得ながら、より良い計画にしていきたい。暑い日が続くので、体調に十分気をつけてお帰りいただきたい。 以上